目　　次

Ⅰ　はじめに …… 1
1　研究の経緯
2　研究の意図

Ⅱ　研究内容 …… 2
1　ユニバーサルデザインの４つの視点を意識した支援の工夫
2　支援を要する児童がグループ活動に参加するための支援の工夫

Ⅲ　研究の実践 …… 5

Ⅳ　今後に向けて …… 9
1　支援を要する児童への自信のもたせ方
2　交流学級の児童の育て方

Ⅴ　資料編 …… 9
1　これまでのユニバーサルデザインの研究の流れ
2　ワークシート

インクルーシブ教育推進に向けた個に応じた支援
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援の工夫～

提案者　栃教協教研推進委員会特別支援教育部
那珂川町立馬頭小学校　教諭　　小林　茂雄

Ⅰ　はじめに

1　研究の経緯

今日、特別支援教育においては、合理的配慮のもと、インクルーシブ教育システムの構築が推進されてきた。その中の課題のひとつとして、様々な個性や能力をもった児童生徒がいる学級において、「すべての児童生徒にとって取り組みやすく、満足感が得られる授業」をどのように作り上げていけばよいのか、ということがあげられる。

そこで本部会では、通常の学級の授業にユニバーサルデザインの視点を取り入れた実践例を提案し、今後のインクルーシブ教育システム構築の更なる推進に向けて役立てていきたいと考えた。本部会におけるユニバーサルデザインの視点としては、「見通し」「焦点化」「視覚化」「共有化」の４つを取り上げて研究を進めることとした。これらのことは全ての児童生徒にとって授業に参加する上での「安心感」に繋がると期待できる。

本研究は今年度で３年目を迎える。

初年度は小学５年の家庭科における製作活動の手順を視覚化することで見通しをもつことができるようにしたり、ペア学習を取り入れることで児童同士が見本となり共有化して助け合う体制にしたりすることにより、支援を要する児童も安心して参加できる授業を提案した。

２年目は、小学４年の社会科におけるまとめ学習として新聞作成の活動を行う中で、児童が自分の能力に応じて新聞のまとめ方を選択できるよう補助資料を用意して、焦点化や視覚化を図ったり、完成見本による共有化を図ったりすることにより、全ての児童が満足感を得られる授業について研究・実践を行い、提案した。

今年度は、グループ活動への参加に焦点を当てた。ユニバーサルデザインの４つの視点を意識した様々な手立てを講じることで、全ての児童が主体的・協働的に学ぶことができるのではないかと考え、研究を行った。

2　研究の意図

音楽科の授業では、通常の学級や特別支援学級を問わず「不器用で楽器の演奏が苦手」「リズムに合わせるのが難しい」「表現の仕方が分からない」などの理由から、苦手意識をもつ児童が少なからずいる。また、アンサンブルなどのグループ活動で、「意見や思っていることが言えない」「集団に入るのが苦手」などの課題に支援を要する場面も見られる。そこで今年度は音楽の授業でグループ活動に参加できるようにするための支援について検討することにした。グループで楽曲の演奏を練習する前に、曲想を話し合うためのイメージをもてるように絵本の読み聞かせをしたり、演奏する楽器を選択する際に複数の楽器を組み合わせた音を呈示することで、選びやすくした

りするなど、ユニバーサルデザインの４つの視点を意識した手立てを講じることで、全ての児童が安心感をもって主体的・協働的に参加できるようになるのではないかと考えた。

Ⅱ　研究内容

１　ユニバーサルデザインの４つの視点を意識した支援の工夫

本部会で取り上げた４つの視点の内容は次の通りである。

⑴　見通し

授業や行事の活動内容に見通しをもたせることにより、不安感を解消し、活動に対しての意欲をもたせる。

⑵　焦点化

内容を絞り込むことで、活動内容や学習内容を明確化・簡略化し、すべての児童生徒が取り組みやすくなる。

⑶　視覚化

掲示物やプリントなどで活動内容・手順を視覚的に示すことで理解への助けとすることや、わからなくなったら見直すことで不安感を解消することができる。

⑷　共有化

ペア学習やグループ学習を通して、活動の内容をクラスメイトと共有することで、内容理解の助けとすることや活動への安心感をもたせることができる。

今回の音楽の授業で取り上げた視点と工夫は次の通りである。

⑴　見通し

①　授業の見通しのできるワークシート

授業の流れがわかるように、単元を通した学習内容を１枚のワークシートに収め、毎時間活用できるようにした。

さらに、楽器のイラストを入れたり、表を埋めるような形式にしたりして記入しやすくした。

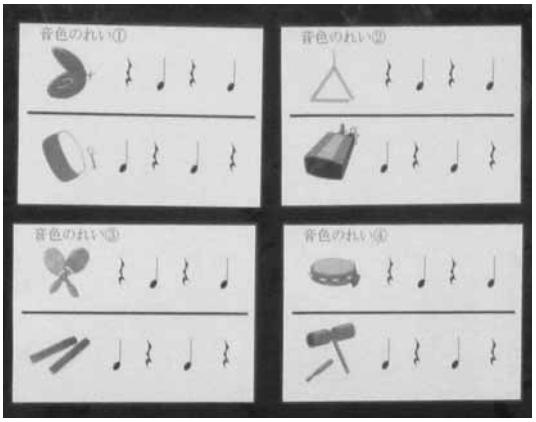
児童は、単元全体の流れと、１時間の授業の見通しをもって活動に臨むことができ、安心して学習に取り組めた。

また、友達と共通のワークシートをもとに話合い活動に参加することで、今、何を話し合っているのか、話合いがどこまで進んだのかを確認し合う場面が見られた。また、他の授業では、活動以外のことに興味をもち、学習を離れてしまう児童も、本授業では、次から次へと友達と交流することにより、活動に参加し続けることができた。

⑵　焦点化

①　音のサンプル（エアラベル）

楽器を組み合わせたときにどのような音になるのか、音のイメージがわきやすくなるように二種類の楽器を組み合わせた音を数種類録音し、児童に聞かせた。これにより、児童が自分達のグループで演奏する際に使用する楽器をスムーズに選ぶことができた。



⑶　視覚化

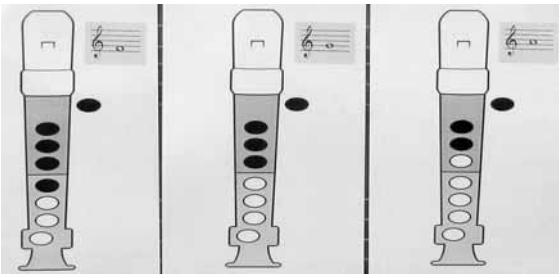
①　場面絵の掲示

児童に自分達のグループで演奏したい歌詞の内容をイメージ化させるために場面絵を提示しながら曲を聴かせた。歌詞の内容が、１番から５番まで変化に富んでいるが、絵を見ながら曲を聴くことで、児童は、イメージがつかみやすくなった。

②　リコーダーの運指表の提示

「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド」の運指表をそれぞれ黒板に掲示した。

児童は運指を視覚からもとらえることができ、練習しやすくなった。



③　音のサンプル（エアラベル）

エアラベルを聴かせる際に、組み合わせた二つの楽器の絵を同時に見せた。そうすることにより、音と楽器のイメージがより結びつきやすくなった。

⑷　共有化

①　話合い活動

グループで曲のイメージについて話し合わせたり、自分達の演奏を聴き合わせたりした。そうすることで、それぞれの児童がもつ曲のイメージを共有することができた。

2　支援を要する児童がグループ活動に参加するための支援の工夫

対象児童の実態から、交流学級での授業の時間だけでグループ活動に参加するための手立てを講じることは困難であったため、自立活動の時間を活用して、事前の準備や練習をして、交流学級の授業に臨むことにした。

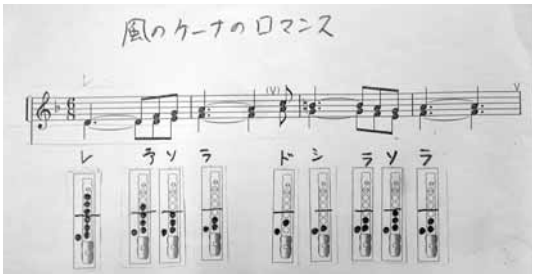
自立活動の時間における取組は以下の通りである。

⑴　話合い活動に加わるための補助指導【人間関係の形成に関すること】

児童それぞれの演奏技能の実態や性格を事前に把握し、その実態をもとに児童と相談した。交流学級での授業に入る前に、どのパートを希望するか候補を決めておくことで、自分の意見としてグループ内で発表したり、意見を伝えたりしやすくなった。

⑵　リコーダー技術の補助指導【体の動きに関すること】

自立活動の時間を利用して、リコーダー演奏技術の底上げ指導を行った。継続的に指導を行うことにより、演奏技術の向上が見られた。



①　楽譜の工夫

それぞれの音符に階名およびリコーダーの運指図を記入した楽譜を作成した。その結果、押さえる場所が視覚的に見やすくなり、練習に取組みやすくなった。

②　練習方法の工夫

特別支援学級の音楽の授業や、自立活動の時間でのリコーダー練習では、教師や他の児童のまねをさせながら練習させた。その際、速度を落としてゆっくり吹いたり、フレーズごとに練習したり、難しいところを取り出して繰り返し練習させた。

その結果、交流学級での音楽の授業においても、他の児童のまねをしてリコーダー演奏の練習をすることができるようになった。

③　演奏方法の工夫

児童の実態に合わせ、間のメロディーを省略して演奏させた。また、ゆったりした曲では小節の頭の音を伸ばして演奏させ、リズムが速い曲では、同じ音でリズムを刻むように演奏させた。そうすることで、児童は吹いている実感をつかむことができ、他の児童と一緒に演奏することができた。

④　指穴の工夫（うおの目パッド）

３年生でのリコーダー学習の導入では、左手で指穴を押さえるため、また、手指が小さいため、しっかり穴を押さえられないことがある。特に、特別支援学級在籍の児童の中には、細かい指の動きが苦手な児童が多いので、軽い力で押さえやすいように、うおの目パッドを指穴に合わせて貼り、押さえやすくした。

以上の実践を踏まえ、交流学級での授業における各自のめあてを明確にして、授業の実践を行った。

Ⅲ　研究の実践

音楽科学習指導案

1　題材名　「気持ちを合わせて」

教　材　主教材「パフ」

2　題材の目標

重なり合う楽器の音の響きを感じ取りながら演奏する。

3　題材について

本題材は、表現（ａ）ア「呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌うこと」とイ「音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏すること」をねらいとしている。子供たちが学習してきた歌や楽器による表現の能力を生かして、声を重ねて楽しむパートナーソングや旋律楽器及び打楽器を使っての合奏や小アンサンブルなどの活動から「重なり合うきれいな響き」に重点を置いた学習をするものである。

子供たちはこれまで、「ドレミの歌」や、「森の子もり歌」の学習で歌声の重なりを感じたり、「陽気なかじや」のリコーダー奏で響き合う音色の美しさを感じたりしながら楽しんで学習をしてきた。また、「せいじゃの行進」では基本的な合奏の形を学習し、楽器の基本的な演奏技能を少しずつ身に付けてきた。

これらの学習から、声や音を重ね合わせてきれいな響きを作るためには、自然で柔らかい発声で歌うことや、楽器の音色に気を付けて演奏することが大切であることを身に付けてきた。

本題材では、これまで学習してきた、歌や楽器による表現の能力を生かし、曲想をイメージしながら音色の異なる楽器の組み合わせを工夫すると共に、グループアンサンブルにおいて、バランスに気を付けた演奏をさせたい。

主教材の「パフ」は、歌詞にストーリー性があるため、曲の中の明るい部分と暗い部分の曲想の違いを楽しむことができる。今まで積み重ねてきた音楽に対する様々な感覚や演奏技能を生かしつつ、曲想に合わせた楽器を選んで演奏方法を工夫するなど、子供たちが生き生きと活動することができるよう、能力や個性に応じた学習を進めたい。

指導にあたっては、歌詞に描かれている情景をイメージする時間を確保した上で、そのイメージや想いを小グループの中で交流することで、表現の工夫に取り組ませるようにしたい。また、児童が、それぞれの楽器の音の特徴を知り、音の重なりや響きの美しさに着目して、創造的な音楽表現ができるように支援したい。

4　児童の実態（４年生　男子14名　女子16名　計30名　支援学級在籍２名含む）

⑴　児童の実態

音楽好きの児童が多く楽しく活動することができる。特に、歌うことが好きで授業はじめの歌など元気いっぱい歌うことができる。

手遊び歌である「茶摘み」や「十五夜さんのもちつき」では、２人グループになっ

て楽しく活動することができた。

一方、楽器演奏が苦手な児童が多く、鍵盤ハーモニカは半数程度の児童が課題の曲を吹くことができる程度である。リコーダーではさらに苦手な児童が多く、「シラソ」「ソラシ」など順番通りなら演奏できるが、順番が変わると演奏できなくなってしまう児童が多い。階名（ソラシ）で言っても指が動かない児童が多いので、シは１、ラは２、ソは３というように押さえる指の数で言って教師の指をまねさせる方法を使って指導している。

グループでの合奏は、「まほうのチャチャチャ」で経験しているが、楽器を体験させることをねらいにおいて学習した程度であり、話し合って楽器を決めて、感じの違いを表現する活動の経験は初めてである。

⑵　対象児について

対象児	児童の実態
特別支援学級児童Ａ	コミュニケーションをとることが苦手である。ピアノを習っている。リズムをとらえることができるが、あまり器用ではないのでリコーダーの演奏は難しい。隣の児童の運指を見ながら、少しずつ演奏できるようになってきている。リコーダーのパートを演奏できるように自立活動等を活用して、リコーダーで参加し合奏を楽しませたい。
特別支援学級児童Ｂ	交流学級ではほとんど話をしない。リコーダーの演奏は難しい。運指を見ても真似をすることができないので、くわえたままの状態である。自立活動を活用して音を省略した特別なリコーダーのパートを練習させて授業に臨ませたい。合奏している中にいるという状態を味わわせたい。

5　指導計画及び評価

次	時	ねらい	学習内容	評価の観点				教師の支援
				関	創	技	鑑	
1	1	・曲想を感じ取り、パートの役割や構成を捉えて演奏する。	・「パフ」の範奏を聴いたり絵本の読み聞かせをしたりして曲の感じをつかむ。 ・各パートを歌詞唱したり階名唱したりする。 ・あくびの歌を活用してファ・ミ・レの運指ができるようにする。	○				【視覚化】絵本の読み聞かせを通して、曲想をイメージさせる。 【焦点化】曲想をイメージするために「お助けワード」を用意する。

	2	・リコーダーの両手を使った運指に慣れる。	・ファ・ミ・レの運指を復習して、リコーダーで演奏する。 ・拍の流れにのって、主な旋律と副次的な旋律、低音を練習する。 ・リズムパートを加える。（旋律やリズムパートに合う楽器を試してみる。）			○		【視覚化】運指表を提示することで取り組みやすくする。 【共有化】リズム伴奏についての感想を話し合わせる。
2	3 本時	・パートに合う楽器を選んだり、歌声や楽器の音色の組み合わせを工夫したりしながら、友達とアンサンブルを楽しむ。	・グループに分かれ、グループ内でパートの分担や楽器の組み合わせを決めてグループ練習を行う。		○			【共有化】グループで曲想について話し合わせる。 【焦点化】音色の組み合わせを示し、楽器を選びやすくさせる。
	4	・さらにイメージに近づけるために楽器や速さを工夫する。	・重なり合う楽器の音の響きに気を付けて合奏を工夫する。		○			【共有化】良い演奏を行うための工夫を話し合わせる。
	5	・グループごとに発表し、互いの良さに気付く。	・発表会を開き、表現の良さを互いに聴き合う。			○		【共有化】他のグループの発表を聞き、良いところを発表し合う。

6　本時の指導

⑴　題目　「楽器の分担を決めよう」

⑵　ねらい

グループに分かれ、自分が担当したい楽器を相手に伝えながら、担当する楽器を選ぶことができる。（音楽的な感受や表現の工夫）

⑶　人権教育への視点

グループのみんなと楽器の分担を決めようとする中で、協力心を育む。（感受性）

⑷　授業の観点

・自分が担当したい楽器について、相手に伝えることができる。
・曲想や自分の力量に合わせて、担当する楽器を選ぶことができる。

⑸　展開（３／５）

【目標】グループ内でパートの分担や楽器の組み合わせを決め、練習できる。

㊙見通し　㊥焦点化　㊦視覚化　㊨共有化　☆人権教育の視点

段階	主な学習活動	教師の支援Ｔ１	特に配慮を要する児童への支援 Ｔ２	準備物
導入	1　全員で「パフ」を歌う。 2　学習のめあてと本時の活動を確認する。	㊨前時までの学習を想起する。 ㊦めあてを黒板に明示する。	㊥めあてを声に出して読む。	
	㊋　歌詞のイメージに合った楽器の組み合わせを考えよう。			
展開	3　グループに分かれ、楽器の組み合わせと分担を話し合う。	㊥あらかじめ、何番を担当するかを知らせておく。 ㊨担当する場面の曲想を話し合わせる。		ワークシート
	・エアラベル（音の組み合わせの見本）をいくつか聴き比べる。	㊦エアラベル（音の組み合わせの見本）毎に楽器の絵カードを掲示する。 ㊥楽器の組み合わせのイメージをつかませる。	㊦エアラベルを聴いたイメージについてカードを使って言葉で表現させる。	エアラベル 楽器の絵カード
	・自分の楽器の組み合わせを考える。	㊦場面絵を掲示しておく。	㊦一緒に場面絵やエアラベルを見て、それらを参考にして選択させる。 ㊥エアラベルの楽器の組み合わせをまねしても良いことを伝える。 ☆選択したものを称賛し自信をもたせる。	場面絵
	・グループの楽器の組み合わせと分担を話し合う。	㊙みんなが意見を出して話合いを進めるように助言する。 ㊙エアラベルをいつでも聴くことができるようにする。 ㊥楽器に触って音の確認ができるようにしておく。	㊙言葉で自分の考えが話せないときは、ワークシートを示して意思表示ができるようにする。	楽　器

展開		㊖やりたい楽器ではなく、曲想にあった楽器を選択できるように声かけをする。		
	歌詞のイメージに合った楽器の組み合わせを考えることができたか。 【音楽的な感受や表現の工夫】（行動観察・ワークシート）			
	4　グループ毎に練習を行う。	㊗担当毎に楽器の練習を行わせる。	㊖担当楽器の演奏の仕方を指導する。	
終末	5　グループで決まったことを発表する。 6　本時の活動を振り返り、次時の活動を確認する。	㊘グループの代表者に曲想と選択した楽器を発表させる。 ☆友達の良いところを認めあう。		

Ⅳ　今後に向けて

1　支援を要する児童への自信のもたせ方

・授業での個人のめあてを先に話しておいて、できたらほめる。
（話合い活動で自分の意見が言えることをめあてにする。）

・自分で本時の課題ができるようにして授業に臨ませる。
（自立活動の時間に交流学級の授業で行う内容を自覚させることで自信をもって交流学級での授業に臨めるようにする。）

・上記のことを繰り返し行っていく。
（場数をふむ。）

2　交流学級の児童の育て方

・周りの児童に支援を要する児童の実態（１つのパートしか吹けない）を理解してもらい、協力してもらう。

・共感的に接する雰囲気の醸成。

Ⅴ　資料編

1　これまでのユニバーサルデザインの研究の流れ

Ｈ28研究テーマ（第33回教研全国大会発表）
「個に応じた支援から全校的な支援体制へ
～ユニバーサルデザインを活用した実践を通して～」

通常学級における教育的支援の重要さから、通常学級の授業を特別支援教育の観点

から見直すこととなった。その中でユニバーサルデザインに着目し、ユニバーサルデザインを導入することにより児童生徒が学びやすい環境を作ることができるのではないかと考え、事例を収集し、分類した。

成果：視覚的に物事を示すことが児童に有効であることが分かった。また、見通しをもたせることは安心感につながることが分かった。

課題：通常学級における様々な個性を持つ児童に対して、どのような支援を重ねていくかが課題である。

H29研究テーマ（3年計画の1年目） 「インクルーシブ教育推進に向けた全校的な特別支援教育への取組 ～合理的配慮を意識した授業実践と啓発の在り方～」

前年度の実践を踏まえ、ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践を行った。家庭科の制作活動において「指示をすべて聞き取れない・理解できない」「見通しがもてず不安になる」児童にどのように支援をするかという研究をすすめた。その際に現在研究の軸としているユニバーサルデザインの4つの観点「見通し」「焦点化」「視覚化」「共有化」を設定した。

成果：見通しをもって取り組ませることで児童生徒が安心感をもって取り組む授業が展開できた。

課題：活動が得意な児童に対して、より高度な課題に挑戦した達成感を味わわせる授業が必要である。

H30研究テーマ（3年計画の2年目） 「インクルーシブ教育推進に向けた個に応じた支援 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援の工夫～」

H29年度の研究で「見通しをもって安心して授業に取り組める授業」を提案した。続けて「授業で学習したことをどうまとめたらよいかわからない」児童に対する支援を研究することとなった。また、ユニバーサルデザインを取り入れる中で「意欲の高い児童も達成感の得られる授業」を設定するにはどうしたらよいのかも併せて研究した。

成果：個に応じた支援を学級全体に広げることで、すべての児童生徒が教科のねらいを達成し、満足できる授業を展開することができた。

課題：大きな課題は見受けられなかったが、特別支援の児童については、配布物を焦点化するなど個に応じた細かい支援が必要である。

2　ワークシート

曲のよさをかんじとって
みんなでえんそうをくふうしよう

パフ

組　　名前

1 歌詞を読んで、感じたことを書こう。

1	ふしぎなパフ　かいじゅうだ	
	きれいな海から　毎朝おはよう	
	なかよしジャッキー　島のちびっこ	
	すぐにかけてきて　やあやあ　おはよう	

2	だれも知らない　はなれ島	
	だけども２人は　さびしかない	
	かいじゅうとジャッキー　すなはまで	
	ゆかいにかくれんぼ　負けるものか	

3	今日は何して　遊ぼうか	
	そうだきみのせなかに　のっけておくれ	
	なるほどジャッキー　おもしろい	
	大きな船だよ　ジャッキーは船長さん	

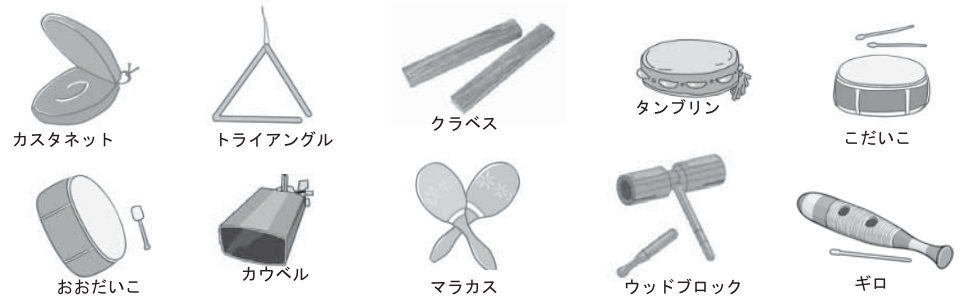
4	あら波だって　へっちゃらだ	
	しぶきあげながら　およいでいく	
	そのうちジャッキー　にじを見た	
	海のむこうのまちへ　行きたくなった	

5	ごめんねパフ　さよなら	
	パフはただ１人　なみだポロロン	
	なかよしジャッキー　わかれても	
	わすれないでよね　パフのことを	

2 何番をえんそうするか決めよう。→ 　　番

3 リズム楽器を決めよう。

自分の考え（歌詞に合う楽器を２つえらんで〇をつけよう）



決まった楽器　【　　】と

【　　】

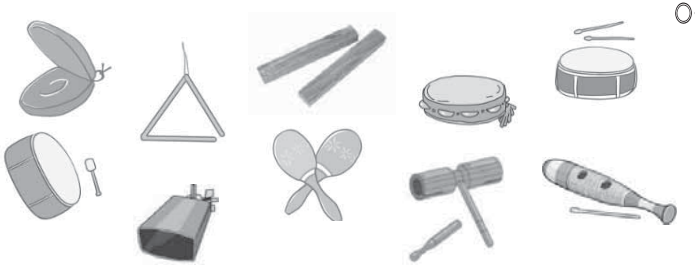
4 がっきのぶんたんを決めよう。

	楽器	たんとう（名前）
パート①	リコーダー	
	リコーダー	
	リコーダー	
パート②	リコーダー	
	リコーダー	
てい音	けんばんハーモニカ	
打楽器		

5 リズム楽器のリズムを決めよう。

楽器	リズム （例：ﾀﾝ・ｳﾝ・ﾀﾝ・ｳﾝ）	ならし方のくふう

学習が終わったらふりかえりをしよう。

時	月日	今日のふりかえり			ひとこと
1	／	曲の感じをイメージすることができた。	楽しく歌詞で歌ったり、階名で歌ったりすることができた。	ファ・ミ・レの指づかいができるようになった。	
2	／	リコーダーで正しくえんそうすることができた。	リズムパートといっしょにえんそうすることができた。	リズムについての感想を話し合うことができた。	
3	／	自分の考えを友だちにつたえることができた。	友だちの考えを聞くことができた。	がっそうが楽しみになった。	
4	／	えんそうする楽器や速さを工夫することができた。	音のひびきを楽しむことができた。	えんそうの工夫を話し合うことができた。	
5	／	グループで発表することができた。	他のグループのよさを感じながら聞くことができた。	他のグループのよいところを発表することができた。	

◎…とても　○…まあまあ　△…もう少し